

テーマ 教育こそ未来より先に動かなければならない ～三浦清一郎先生を偲び、その志を継ぐ～

本大会では、昨年第40回大会を記念して『教育こそ未来より先に動かなければならない～未来の必要Ⅱ～』を編集・発行しました。第30回大会を節目に作成した記念出版以来、「未来の必要」は私たちの合言葉です。編集委員長の三浦清一郎先生が示された記念誌の主要コンセプト「未来の必要」は、過去の発表事例を「未来を展望していく素材」として分析・評価し、当該事業から未来に活用できる理念を取り出し、将来起こり得る課題を予測して「本来の事業はかくあるべき」という「内容と方法を提示する」ということでした。

しかし、未来を展望することは簡単なことではありません。社会がより複雑になり、変化が生活のあらゆる分野で起こり、新たな課題を生み出しています。変化をいち早く理解し課題に対処するためには継続的な学習と革新のための教育が必要不可欠です。また、伝統的共同体が崩れ地域のつながりが薄れている現在、第4期教育振興基本計画で掲げられた「ウェルビーイング（一人ひとりが幸せであるとともに社会全体も幸せや豊かさを感じられる良い状態）の向上」は容易なことではありません。“つどい、学び、つながる”社会教育の手法がますます重要になってきていると感じます。

本大会は「未来を展望する素材」となる実践事例に学ぶ場であり、学びを通じて志が出会い人がつながる場です。「現場の実践」から学び（実践研究）、語り合う（交流）会として、昭和57年に三浦清一郎先生が立ち上げられました。その三浦先生が昨年11月に82歳で逝去されました。直前まで執筆、講演をこなされ生涯現役を貫かれました。第41回大会は、三浦先生を偲び、先生のご功績を振り返りつつ、その志を継いで未来を展望する会にしたいと企画を考えました。先生と親しくされてきた方々だけでなく、話したこともないという皆様もどうぞご参集ください。

今年もまた「未来の必要」につながる24事例が集まりました。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にも心より感謝申し上げます。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな

5/17 (金)

情報交換会 19:00～

参加者、各県実行委員会の皆さまとの情報交換会の場を設けました。一緒に食事をとりながら、ゆっくりと御歓談ください。

5/18 (土)

開会式 10:00～10:30 講堂

午前 実践発表① 10:30～12:20

- 第1会場**
- みんなの声を町政に反映する百人委員会
～みんなの理想を具現化した「CHIZU PARK」～ 谷口 史行（鳥取県八頭郡智頭町）
 - 地域学校協働活動の中核としての子ども会活動に関する実践
～子ども会活動を中核に据えた地域学校協働活動～ 嶋木 孝夫（鹿児島県始良市）
 - すべては子どもたちのために～学校支援で始める地域支援～ 中村 千恵（福岡県田川郡川崎町）

- 第2会場**
- あなたにきてほしい松島公民館
～「公民館 どんどころ なにするところ みんなのどころ」
誰一人取り残さない地域を目指して～ 坂本 孝介・坂口 直美（福岡県福岡市）
 - 廃れた伝統文化の更新と文化の創造
～奉納相撲の場から「棧敷の音楽会」への展開～ 山本 統（山口県光市）
 - 学びあい、つながっていく地域づくり～玉城少年の家の挑戦～ 山崎 新（沖縄県南城市）

- 第3会場**
- 学園生がお年寄りを笑顔で明るくする産山村
～子どもヘルパー活動を通じた地域課題解決に向けて～ 高橋 正郎（熊本県阿蘇郡産山村）
 - 子育て世代の地域づくり「だんだんプロジェクト」による手作りの児童クラブ 車 浩一・高野 喜子（鳥取県西伯郡伯耆町）
 - ジュニア・リーダーと地域が連携した共創型「協育」
～「地域の未来」を「未来のリーダー」とつくる～ 東 徹郎（鹿児島県出水市）

- 第4会場**
- 学びにおける自己肯定感の重要性と実践的な取組 出口 光太郎（長崎県長崎市）
 - 地元の大学生が挑む！地域の魅力づくりに関する研究
～温泉だけじゃない道後の新魅力の創出～ 阿河 優里・齊藤 葵・村瀬 あみ（愛媛県松山市）
 - 小さな寄席小屋スタイルのチンドン屋「花ふぶき笑劇場」 宮田 若奈（宮崎県都城市）

ふるさと自慢ポスター展

あなたのまちの「むらおこし」「まちづくり」「ひとづくり」などのイベントポスターやチラシで、故郷の自慢を広くアピールしませんか？

- 参加資格 誰でも展示できます。
- 出品数 1イベント1点、
- 提出方法 大会当日受付にてお申し出ください。
- 留意事項 ポスター・チラシに限ります。展示品は返却できません。

午後 実践発表② 13:50～15:40

- 第1会場**
- いっしょに話そう、中学校区でひとつに！
～「地域へGo to ボランティア」からうまれたもの～ 小林 和彦・青砥 晃子・山根 陽子（鳥根県雲南市）
 - 「ふるさとの大地に輝く氷川つ子」の育成 古閑 由美・稲本 眞理（熊本県八代郡氷川町）
 - あなたの子育て応援します！～「ともに」育てるネットワークづくり～ 森 郁子（福岡県柳川市）

- 第2会場**
- こどもサポートにっこにこの活動について 小畑たるみ（大分県杵築市）
 - 「ない」「ない」「ない」～つやまキャンプの「ない」事例～ 小椋 聖也（岡山県津山市）
 - 小学生による俳句相撲大会～20年を超える継承の軌跡～ 古川 裕三（山口県下関市）

- 第3会場**
- 地域全体で子供たちの学びや成長を支える地域学校協働活動の推進
～学校応援団の活性化と寺子屋「黒木塾」の企画・運営等を通して～ 平山 淳郎（鹿児島県薩摩川内市）
 - 教育と福祉の融合をめざして
～つながって、地域で子どもを見守り、支える仕組みづくり～ 普久原 小百合（沖縄県浦添市）
 - 高校生のためのサードプレイス～地域で生きる高校生のチカラ～ 佐藤 淳子（大分県大分市）

- 第4会場**
- 好きだからこそ始まった人づくり・地域づくり
～けん玉がつなげた仲間たち～ 上重 卓広（山口県山口市）
 - 「あさはらビジョンづくりワークショップ」に関する実践研究
～ビジョンを描こう！呼びかけよう！私たちがやりたい姿はこんな感じだ！～ 中村 満（広島県廿日市市）
 - 益田市の「ひとづくり」の系譜
～なぜ「ひとづくり（社会教育）」が市の重要施策となったのか～ 大畑 伸幸（鳥根県益田市）

特別報告 16:00～16:30 講堂

「妻の定年～家庭内男女共同参画の最終章～」遺稿を読み解く 報告者 大島 まな（九州女子大学教授）

第41回大会交流会 17:00～19:00 体育館

参加者、実践発表者、各県実行委員会の皆さまが一堂に会して、交流を深める場を設けています。以下の内容で実施します。たくさんの方々の御参加をお待ちしています。

食事、各都道府県の紹介、歓談（名刺交換）、おらがまちの名物自慢（特産品）オークション

5/19 (日)

第41回大会 特別企画 9:00～11:30 講堂

「三浦清一郎が問い続けた『未来の必要』～その教育思想と実践～」

第1部 「各地生涯教育実践研究交流会の展開と意義

～大会はなぜ広がったのか、何をもたらしたのか～

- 登壇者 「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」 鈴木 昭博 氏（茨城県水戸生涯学習センター次長）
「地域教育実践交流集会」（愛媛県） 中野 治司 氏（国立大洲青少年交流の家所長）
「長崎県社会教育支援『草社の会』」 武次 寛 氏（長崎県社会教育支援「草社の会」事務局長）
「宮崎県生涯学習実践研究交流会」 竹内 一久 氏（宮崎県諸塚村教育委員会教育長）
聞き手 古市 勝也（九州共立大学名誉教授）

第2部 「青少年教育の原点と学社連携の可能性

～タフな子どもを育てる教育プログラムと支援の仕組みを問う～

- 登壇者 松田裕見子 氏（長崎県老崎市立石田小学校校長）
森本 精造（元飯塚市教育委員会教育長）
聞き手 大島 まな（九州女子大学教授） ※内容は令和6年3月末日現在のものです、変更になる可能性があります。

「おらがまちの名物自慢」

あなたのまちの名物は何ですか？地酒・焼酎・海産物・お菓子……。毎回、参加者がお国自慢の品々を持ち寄る「おらがまちの名物自慢」。「オークション」での競売を行います。大会当日、専用受付にて、所属・氏名・特産品名・セールスポイント・設定金額等を御記入いただき、お預けください。たくさんのお参加、お待ちしております。※「生もの」や「手作り雑貨」の出品は、なるべく御遠慮ください。

